

令和8年2月9日

議会運営委員会会議録

- 1 日 時 令和8年2月9日
開会 10時00分 閉会 11時00分
- 2 場 所 幕別町役場3階委員会室
- 3 出席者 委員長 小田新紀
副委員長 野原恵子
委員 塚本逸彦 内山美穂子 酒井はやみ
荒 貴賀 岡本眞利子 田口廣之
副議長 中橋友子
議長 寺林俊幸
オブザーバー 石川康弘
- 4 職務のため出席した議会事務局職員
事務局長 佐藤勝博 課長 岩岡夢貴 係長 渡辺 優
- 5 審査事件及び審査内容(別紙)
 - 1 議員定数及び議員報酬等の見直しについて(第25回)
 - (1) 幕別町議会「まちトークカフェ」の結果報告について
 - (2) 議員定数及び議員報酬のあり方について(議会運営委員会の結論)
 - (3) 今後の進め方について
 - (4) 次回の委員会の開催日程について
 - (5) その他

議会運営委員会委員長 小田新紀

◇審査内容

1 議員定数及び議員報酬等の見直しについて（第25回）（10：30～11：00）

○委員長（小田新紀） ただいまから、議会運営委員会における議員定数及び議員報酬等の見直しについて（第25回）会議を開きます。

議案の1 幕別町議会「まちトークカフェ」の結果報告についてを、議題といたします。

本件は、昨年12月16日の第4回町議会定例会で、議員派遣の決定を受け、本年1月24日から31日までの間に、町内6会場で開催したところであります。今後、議長に提出する議員派遣結果報告書に添付する報告書（案）を資料1のとおり作成しましたので、事務局からの説明を求めます。

議会事務局長。

○議会事務局長（佐藤勝博） 令和7年度幕別町議会「まちトークカフェ」報告書（案）について、ご説明いたします。資料1をご覧ください。

本資料は、本年1月24日から31日までの間に、町内6会場で開催しました「まちトークカフェ」について、グループワークによる意見交換の内容や、参加者アンケートの集計結果などをまとめたものであります。概要について説明いたします。

はじめに、1ページをご覧ください。

1、開催状況については、会場ごとに参加人数を記載しておりますが、6会場の合計で45人、3人が複数会場に参加のため、実人数では39人の町民の方々に参加していただいたところであります。

次に、「2 会議録の概要」は、各会場におけるグループワークでの意見交換の内容について、各グループでの記録を取りまとめ、主な項目ごとに記載したものであります。

詳細の説明は省略いたしますが、議員定数や議員報酬のみならず、町内会の関係や道路、除雪の実情、地域振興策や防災、環境対策など、様々なテーマで意見交換が行われたところであります。

次に、16ページをご覧ください。

3、参加者アンケート集計結果は、まちトークカフェ終了後に参加者から提出していただいたアンケートを集計したものであり、参加者数45人のうち、40人から回答をいただきました。

問1、参加者の年代は、70歳以上が30パーセントで最も多く、次いで50代が27.5パーセント、60代が20パーセントであり、50代以上の方々が約8割を占めたところであります。

問3、まちトークカフェの内容は、良かった（満足できた）、普通（まあまあ）との回答が85パーセントを占めており、17ページになりますが、その感想として、「議員が普段着で出席されていて、話し合いがしやすい雰囲気でした。」、「色々な話題の話ができた。」、「色々な意見が聴けて良かった。」などの回答がありました。

18ページをご覧ください。

問5、議員定数については、「減らすべき」が37.5パーセント、「今のままで良い」と「わからない」がそれぞれ30パーセントでありました。

「減らすべき」と回答した主な理由は、他町村との比較や町の財政状況を懸念するもので、定数は、15人から16人程度とする意見が複数ありました。また、「今のままで良い」と回答した主な理由は、多様な意見の反映を望むものでありました。更に「わ

からない」とした回答につきましては、議員の役割をわかっていないことを理由とするものなどがありました。

19ページをご覧ください。

問6、議員報酬については、「増やすべき」が47.5パーセント、「今のままで良い」が17.5パーセント、「わからない」が30パーセントでありました。

「増やすべき」と回答した主な理由は、社会情勢や議員活動へ専念する観点からで、報酬額は、5万円を増額する意見が複数ありました。

また、「今のままでいい」と回答した主な理由には、政務活動費を作るべきとの意見と、議員定数が減れば報酬額を増やしてもいいとする意見がありました。

更に、「わからない」とした回答は、実態がわからないことを理由とするものなどでありました。

20ページをご覧ください。

問7、町議会への意見・要望については、今後も町民の声を聴く機会や意見交換の場を望む意見や、議員の資質向上への期待などが寄せられたところがあります。

「まちトークカフェ」報告書（案）についての説明は、以上であります。

○委員長（小田新紀） ただいま、事務局から報告書（案）について、説明がありました。

報告書の構成や体裁、記載内容について、現時点で、訂正や記載漏れなど、お気づきの点やご意見等がございましたら、挙手をお願いいたします。

それにも関わってくることもあるかもしれませんが、まちトークカフェをやってみてですね、今回初めての取り組みということで、2班に分かれて、やってきました。それぞれのグループの、この報告書での共有もできますが、この場でもですね、共有をしながら、皆様方の内容についての評価であったりとか、改善点であったりとか、あるいは今後はこういった形で、町民の皆様と情報交換や意見交換をする場をさらに改めて違う場を設けたほうがいいんじゃないかというご提案だったりとか、その辺り少し自由に、ご意見いただければなというふうに思います。

せっかくですので、お一人ずつ、いかがでしょうか。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 非常にちょっとまとまらないんで申し訳ないんですけど、やっぱり多様な意見が出たというところではありますけれども、我々が住民の意見をもっと取り入れようとしてこういったものもやって、たしかにそれは大事ではあるんですけども、中には住民の方ではある程度議員のことなんだから、議員の方である程度決めてくれという意見もあり、すべてに満足していただけるのは中々難しいとは思いますが、こういった意見も重要なことですので、今回に限らずですね、何回も繰り返して町民の方が、いつもこういうことがあるんだというふうにして、普通のこととして認識してもらえるようになったら、もっと意見も変わってくるし、コミュニケーション不足で議員のこともよくわからないっていう方も減ってくると思いますので、そうすると本来の方の議論に入れると思うので、始めたばかりですので、繰り返してやっていくことが大事じゃないかなと思います。

○委員長（小田新紀） 内山委員いかがでしょうか。

○委員（内山美穂子） 今までの意見交換会とは、かなり違うような雰囲気です、町民の人と堅苦しくなく、本当に歴史についてですとか、身近な内容についてですとか、フランクに話ができたといいように感じています。それはきっと町民の方も議員とそう

いう形で話が行えてよかったというふうに、思っている方が多いんじゃないかなというふうに思います。アンケートの結果を見ても。なので、こういうことは続けていければいいなというふうに思っています。

○委員長（小田新紀） いかがでしょうか。

○委員（酒井はやみ） 私も同じような意見で、やはり色々な意見を聞きたいなという声だとか、実際に生活してきたの困りごとを相談したかったということで来られた方も複数いらっしゃって、やはりこちらがそういった場を設けていくということが、皆さんの声を聴くうえでもそうですし、次に活かしていくうえでも大事だなと思って、先ほど塚本委員が言われたように、こういったことを議会がやっていくんだということが定着していけば、町民との有機的な関係ができていくのかなというふうに思います。

○委員長（小田新紀） 荒委員。

○委員（荒 貴賀） 同じような意見ではありますけれども、議会と住民の方が少しでも距離が縮まって、相互理解が深まればいいなと思っています。一つ感じたのが、住民から今回、色々な声を出していただいて、困り事とか対応だとかという中で、その取り組みを今後どう対応して、結果として報告していくかというのにも必要になってくるのかなというのを感じています。

○委員長（小田新紀） 岡本委員。

○委員（岡本眞利子） 今まで皆さんが言われたとおり、やはり今回のこの取り組みを6会場で行ったということはすごくプラスになったのではないかなというふうに感じました。そして、住民がどのように私たち議員を見ているかということもやっぱりわかったということと、もっと話したいんだなということが何か伝えられたように感じました。テーマを持たないで、色々な話をしながら議員に対しての思いを引き出していくという面ではすごくよくて、堅苦しい形で入って議会とはこういうものですよという説明よりも、皆さんの困ったことは何かありますかというような問いかけから始まったということがすごくよかったのではないかなというふうに感じました。そして、厳しい意見もありますね。この議員定数の件に関しましても、もう約1年近くかかっているのになぜ議員たちで答えが出されないんだという厳しい声もやっぱりいただいて、方向性も決まらないということはどういうことなんだっていうこともすごくいただきました。そういうことを考えると議事録をしっかりと読んでいて、私たちの意見なども把握しているようなんですけども、他の町はどうして、簡単に決まっているわけではないんですけども、決まっているのに、幕別町はなぜ1年近くかかってどうなんだということはやはりね、住民も思っている方もいらっしゃるということもひしひしと感じました。

○委員長（小田新紀） 田口委員。

○委員（田口廣之） すいません。長らく欠席していました。色々な議論の中で、自分も書類を見ていたんですけども、やはりなんていうんですか、他町村の真似をするじゃないんですけども、やはり、定数と報酬を見直す時期に来ているのかなという流れがあるんじゃないかなと思っています。

○委員長（小田新紀） 野原副委員長いかがでしょうか。

○副委員長（野原恵子） 今回のまちトークカフェなんですけれども、年齢層としては70代の方が一番多いんですけども、やはり40代から20代の方々にもっと参加してもらえる手だてというのが必要かなというふうに思いました。また、進んで行って本当に難

しいんだなと思ったんですけれども、町民から出された意見を、なるべくみんなで共有して議論してくというね、そういうことも必要ではないかなというふうに感じておりました。色々な場でこういう町民と議員との懇談を、これから多様に行っていくというのをみんなで知恵を合わせて行っていくということがね、議会と町民との距離を縮めていくことになるんじゃないかというふうに思っております。

- 委員長（小田新紀） 実施したことに対しては皆さん、一定程度よかったというような評価かなというふうに受けとめております。今後の改善点とか、またこういった別の形でというようなそういったご意見とかご提案というのはいかがでしょうか。今、野原副委員長からも、30代、40代、別の世代へとだったりとか、進め方について、色々みんなで少し技術を上げなきゃいけないかなというようなご意見もいただきましたが、その辺りも含めて、感想やご意見いかがでしょうか。

この会を始める前にまちトークカフェというのが、もっと気軽な場でスーパーであったりとか、地域の方が見える場面でというようなこともありました、今回はちょっとそれが条件的には叶わなかったんですが、そういうことも今後考えていくべきかなというに私も思っていますし、今副委員長からも話がありましたが、本当に初めてのことなので、進め方等々も非常に難しかったと思う中で、できるだけ町民の参加してくださった皆さんの意見を、たくさん出していただきながら、そこに参加された方で全員で共有し、みんなで考えると言った進行方法というか、そういったこともですね、例えば議員会とかそういったところで、研修会を開くというのも、今後、個々の議員活動にも繋がるのかなというふうにも、私も感想を持ちながら、拝見させていただいております。

よろしいでしょうか、皆さん。

石川議員。

- オブザーバー（石川康弘） 今回のまちトークカフェはすごくよかったとだと思っておりますけれども、それぞれの会場で、議長が挨拶の中でね、これからは、こちらから出ていってという話をされていまして。そういった中で、私は例えば、町内会の新年会であるとか、それと老友会の新年会であるとか、総会だとかね、そういうところに出向いていける流れというのは作っていかなくちゃいけないのかなと思うんですね。多分、町長はそういうことはやっていると思うんですけど、議会としてそういう取り組みを周知するというかね、そういうことも何か必要になってくるかなというふうに思っております。

- 委員長（小田新紀） ありがとうございます。

では、他にご意見がありませんようなので、改めて報告書の記載内容について、再度ご確認いただいて、お気づきの点がございましたら、2月12日木曜日までに事務局の方へご連絡をお願いいたします。

では、議案1については終わってよろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

- 委員長（小田新紀） では、議案2に移ります。

議員定数及び議員報酬のあり方について（議会運営委員会の結論）を議題といたします。

議員定数及び議員報酬のあり方について、皆さんご存じであります。令和6年9月25日の議会運営委員会において本委員会にて検討することを決定いたしました。11月19日から協議開始、本日まで、計25回の議会運営委員会を開催。また、全員協議会を

6回、町民との意見交換会を3回、そして、先月のまちトークカフェを6回開催して参りました。また、議員研修会等々に参加したり、講師を招いたりということも通じて、慎重に議論を重ねて参りました。

以前からもお伝えしているとおり、これまでの協議を踏まえて議会運営委員会として結論を出していかなければいけない時期に来ているのではないかとというふうに考えているところでございます。

現段階では、様々な、当初は本当にご意見がある中、議会運営委員会の中で、素案であります。議員定数が17人から19人。議員報酬が26万2,000円から31万2,000円を適正とするという考えに絞ってきたというところでもあります。ただ、いずれも一つにまとめるというところまでは至っていないという状況でもあるということでございます。その上で、最終的な方向性はまちトークカフェも踏まえながら、皆さんで考えていきましょうということ、以前からもお話しさせていただいております。改めて考えをですね、この後、議運の中で、本当に一つということ、まとめていくという協議を続けるのか、あるいは、これ以上議論しても、見解の統一には至らないというふうに判断し、素案の内容をこの議会運営委員会としての最終的な協議結果として結論を出すのか、そのどちらかということ、各委員のお考えを改めて伺いたいというふうに思っております。

また順番にご意見をいただきたいと思っております。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） まちトークカフェの町民の方の意見も踏まえて、色々考慮しますとやはり、我々の協議は、今日で25回目。これが、議運の答えなのかなというところで、多分、右行ったり左行ったりとかはあるんでしょうが、中々絞り切れないんじゃないかなというところで、限界といたらおかしいんですけども、限界ではないかと思っておりますので、議運としてはここまでの答えというところで行くしかないと思っています。

○委員長（小田新紀） 内山委員。

○委員（内山美穂子） 私も同じです。もうかなり回数を重ねて議論してきたんですけども、まちトークカフェをしてはいますが、だからといって、一つの見解にまとまるというふうにはならないと思っておりますので、とりあえずここで一つにまとまらないので、今までのことをまとめとして、考えていければなというふうに思っています。

○委員長（小田新紀） 酒井委員。

○委員（酒井はやみ） 今回のまちトークカフェでもやはり定数のことでは意見が分かれてるような状況もありますので、ここの意見もそんなに集約されていくということ、ちょっと見通せないという気がしますので、これが答えということ、いいと思いません。

○委員長（小田新紀） 荒委員。

○委員（荒貴賀） 私も同様に、今回提案された素案のままでいいのかなというふうに思っています。色々な考えを持つ住民の方がいて、議員が付託され、応援を受けておりますから、色々な考えがあっただけじゃないかなと思っております。そういう中で、まとめるということはやはり、こんなにやっていますし、そこで議論して、どういった結論になったかっていうことがすごく大切なんだろうなと思っておりますので、今回の一つの結論が出たのではないかと私は思っております。

○委員長（小田新紀） 岡本委員。

- 委員（岡本眞利子） 今、皆さんが言われたとおり、議運としては回数を重ねても、やはり行く先は、平行線をたどるような状況にきているのではないかなというふうに思います。議運としてはここまでで出たんですけれども、それをそのままがいいのかといったらそうはいかないと思うので、それをどうしていくかということがこの先のこととして、やはり違う手法を考えながらもっと絞っていかなきゃいけないと思います。議運としてはここまでしか答えが出なかったのかもしれないけど、このままでじゃあ次どうするんだということにはならないと思うので、違う何か手法を考えながら、これをさらに絞っていく方向に進めていくべきではないかなというふうに思います。
- 委員長（小田新紀） 田口委員。
- 委員（田口廣之） 岡本委員と同じような意見になるんですけれども、やはり議運での議論は限界がありますので、次の、話し合いに進めていくべきかなと思います。
- 委員長（小田新紀） 野原副委員長。
- 副委員長（野原恵子） 議員定数については、共産党会派としては、19人というふうに提案をしておりますので、定数については17人から19人ということで、現状維持を私たちは求めていますので、定数の方はこれかというふうに思っております。それと報酬なんですけど、まちトークカフェへのアンケートでは、議員報酬について、今までで良いいというのが、17.5パーセント、わからないが30パーセントで47.5パーセント、増やすべきが47.5パーセントで同じなんです。それで、私としては、議員報酬については上げることに否定的ではありません。2万円から5万円ということも提案しておりますので、これでよしとしております。また議運では、ここが限界かなと思いますので、次の手法を考えていくということを提案したいと思います。
- 委員長（小田新紀） ありがとうございます。まちトークカフェや意見交換会で出されたご意見で、様々なご意見をいただいていたわけで、ただ、そういった視点というのもですね、本当に25回の会議の中で、皆さんから出していただいた、あるいは全員協議会の中でも、出てきたご意見を検討してきているということも踏まえれば、まちトークカフェ出されたご意見も踏まえた議論が積み重ねられてきたというふうに認識してもいいのかなというふうに私としても考えております。皆さんのご意見も、ほぼ一致されてるというふうに押さえます。議会運営委員会としての限界というものもある中で、これ以上に、一つの数字に絞っていくということは非常に困難だということでもありますし、また議論は尽くされたというふうなことから押さえていいのかなというふうに思っていますが、改めまして、この素案の内容を、議会運営委員会として最終的な協議結果というような結論とするということで、抑えさせていただいてよろしいでしょうか。
- （異議なしの声あり）
- 委員長（小田新紀） では、その上でということになりますけど、議運としての結論を整理するに当たりまして、資料2の議員定数、議員報酬についての主な理由、論点、に記載されている内容について、追記や、修正、修正はあまりないのかなと思うんですけど、追記といったものが必要かどうかについて、ご意見をいただければと思います。素案のところ、理由、論点のところですね、さらにまちトークカフェといったことも踏まえて、追加しておくべきことがあったほうがいいのではないかなというふうなご意見があればいただきたいなというふうに思います。無理に追加する必要はないんですけど、やっぱり入れておいてというものがあればです。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） まちトークカフェでも色々な意見があったので、これだということとは徹底的には言えないと思うんですけども、やはり長年上がっていない、社会情勢的にもやはり賃上げや物価も上昇している。そういった部分も含めて、なり手にも関係してますけれども、上げることはいたしかたないんだという意見も結構私は耳にしましたので、社会情勢等を踏まえてという部分もいいんじゃないかなと思います。

○委員長（小田新紀） それは定数も報酬もですか。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 報酬についてですね。

○委員長（小田新紀） 社会情勢を踏まえてという理由ですね。塚本委員の方から議員報酬について、社会情勢を踏まえてという理由を追記してはいかがかということでご意見をいただきました。

皆さんの方でご検討いただければと思います。

酒井委員。

○委員（酒井はやみ） 社会情勢を踏まえてというのが何を指すのかがちょっと明確じゃないかなと……。例えば、全体として物価が上がっているとかということと具体的なことを書かないともうちょっと説得力がないかなと思ったんですけど、もし中身があったら伺いたいと思います。

○委員長（小田新紀） 塚本委員。

○委員（塚本逸彦） かなりアバウトな表現だったんですけど、賃上げのトレンドとかですね、それから物価上昇、そういった部分を具体的に明記するかどうかは検討していただいて結構ですけども、そういったことについて意見もあるとおり、住民の方はそういった部分を入れておっしゃっていたと思うので、どうでしょう。

○委員長（小田新紀） 荒委員。

○委員（荒 貴賀） その範囲だったらね、なくてもいいのかなとかというのはあるんですけど、実際、議会がこの間本当は上がってなかったのかっていう中で、実は賞与の部分は上がってはいるんです。

今まで4.1でしたかが4.6に上がってるので、人事院勧告も合わせて報酬は上がってるので、完全に上がってないっていうわけではないのも考慮する必要もあつたりするので、そこは、今回の議論ではないので、あえて触れませんが、情勢的にはどうなんだというのは別の議論が必要だと思います。

○委員長（小田新紀） そうですね。先ほど酒井委員、荒委員より話もありましたが、社会情勢ということについては本当にすごく範囲が広いというところがあると思いますので、それこそ、塚本委員のおっしゃった物価高騰のということであればそこについて議論したいなと思いますし、社会情勢という言葉自体は、様々なことを含むことになるかと思うので、ちょっと丁寧な説明は、必要かなというふうにも私も思います。

岡本委員。

○委員（岡本眞利子） あえてそこは入れなくてもいいんじゃないかなというふうに思います。入れた方が逆に、物価高騰はもちろん全国であり、私たち議員だけではないので、そのことに対しては、逆に反論を招くのではないかなという懸念もありますので、あえて入れないほうがいいのではないかなというふうに思います。

○委員長（小田新紀） いかがでしょうか、そのほか。

逆に、あえて入れない方が、というご意見もありました。皆さんなんとなくうなずいてらっしゃるかなというふうに思うんですが、おっしゃっていることはすごくわかりますし、議運や全員協議会の中でも、物価高騰だったりとか、賃金の上昇によることも考慮していくべきだというようなご意見も議員の中からもあったので、おっしゃっている意味はわかるんですけども……。ここであえて入れるということは控えましょうか。よろしいでしょうか。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） はい。

○委員長（小田新紀） ご意見ありがとうございます。この中ではあえて追加しないということにさせていただきます。

他いかがでしょうか。よろしいでしょうか

（なしの声あり）

○委員長（小田新紀） では、特に変更はないということではありますが、次回の委員会で改めて報告書の原案をお示しさせていただいて、内容について協議し、整理していきたいというふうに考えております。

先ほどの今後についてということでのお話もいただきましたが、今後の進め方についてというところにも入っていきたいと思います。ひとまず議案2につきましては、素案を今の形で、最終決断とするということで、示させていただきます。

今後の進め方について議題といたしますが、先ほどさらなる別の形での議論をしていって検討していく。できれば、一つに絞っていくというような、一つに絞っていくのはちょっと、そんなご意見はなかったかもしれませんが、違う形で議論を進めて、最終的な判断を示していくというようなご意見をいただけたらなというふうに思いますが、改めまして今後どのように進めていくかということについて、今ここでは結論が出ないかもしれませんが、ご提案やご意見がございましたら挙手をしていただければと思います。

酒井委員。

○委員（酒井はやみ） 議運としての結論がここで出たということであれば、議運として次の手法を考えるというのは、どういう必要があるのかということも含めて。選択肢というか……。

○委員長（小田新紀） 議運として素案は、今のままということになりますが、それで、手放しますというわけにはやはりいかないかなというふうに思っておりますし、議運はやはりしっかりとした方向性を示していくことの必要性はあるかなというふうに思いますので、どういった方法で次の議論を移していくかというふうなこと、あるいは次の方法ですとかについては、一定程度意見をいただいた上で、議運としてはこういうふうにしていくぞというようなことを考えていかなきゃいけないと思うんですが、具体的には、例えばですけども、議員提案という方法も一つかなというふうに思います。ある議員から、定数は何、報酬はいくらだというような提案を出していただいて、本会議で議論するというような方法もあるのかなというふうに思います。それから、町民の皆さんからですね、陳情を出していただいて、それを審議するという方法も一つの方法としてはあると。それから、さらに言えば、例えば、前回の全員協議会で出された、特別委員会というものを開催して、みんなで決めていくというようなことも考えられるのかなというところでもありますかね。

酒井委員。

- 委員（酒井はやみ） 最初の二つの議員提案とか、町民からの陳情というのは、議運が決めることではないのかなと思ったんですが、町民さんから出してくれとか、各議員からの考えとして出すとか……。なので、特別委員会を開催するかどうかということのかなと思ったんですが、その最初の二つについてもここで議論する必要があるということですか。
- 委員長（小田新紀） 暫時休憩いたします。

（暫時休憩）

- 委員長（小田新紀） 休憩を解いて再開いたします。
先ほど、提案させていただいたとおり、今後のあり方についてですね、改めてご意見をいただきたいというふうに思います。
荒委員。
- 委員（荒 貴賀） 今回提案いただいたので、すぐ今回でどういった内容がいいですと結論を出すのは少し難しいなと思うので、少しお時間をいただいて、熟考させていただければありがたいなと思います。
- 委員長（小田新紀） 少し時間をおいて、会派等々も含めてかと思いますが、検討していきたいというふうなご意見をいただきましたが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
岡本委員。
- 委員（岡本眞利子） 我が会派では、もちろん会派内では結構話し合ってはおります。その中で、議会としては無会派の方もいらっしゃるの、議運だけで決めるという方向性にはならないかと思っておりますので、時間もね、ある程度というふうなわけはいいかと思いますが、これを各会派持ち帰りながら、そして早急にもう一度議運を開いていただいて、そこで会派で話し合った件を会派ごとにまとめてこの議運に臨むという、それが長い時間じゃなくって、もう早急にしていかなきゃ間に合わないのではないかなというふうに思っておりますので、ちょっとの時間を会派で相談しながら無会派の方も考えながらということで、改めて議運の時間をちょっと取っていただいたほうがいいのではないかなと思います。
- 委員長（小田新紀） では、よろしいですかね。岡本委員や荒委員からもお話いただいたとおり、一旦持ち帰っていただきまして、今後どのような形で進めていくかということについて、改めて考えを整理していただいて、次の議会運営委員会で、また議論させていただくという形にさせていただきたいと思っております。
よろしいでしょうか。
（異議なしの声あり）
- 委員長（小田新紀） ではそのように進めさせていただきます。
それでは早急にというふうなお話もいただきました、議題4、次回の委員会の開催日程についてであります。
候補の日時については、2月12日、今週になります。2月12日木曜日の午前10時でいかがでしょうか。
（異議なしのお声あり）
- 委員長（小田新紀） それでは、2月12日木曜日10時ということで日程については、決めさせていただきました。次回の本委員会で、議長に提案する議員定数及び議員報

酬のあり方に関する協議結果報告書の内容を審議していただくとともに、先ほど申し上げたとおり、本件に関する今後の進め方について協議して参ります。

5、その他についてであります。

委員の皆様から何かございますか。

(なしの声あり)

○委員長（小田新紀） 事務局からありますか。

議会事務局長。

○議会事務局長（佐藤勝博） この場をお借りしまして、事務局から一点、申し上げたいと思います。

一般質問の答弁における前置きの集約化、簡略化について、町長部局から説明がありましたので、ご説明いたします。

これまで一般質問の答弁におきましては、質問者のみならず、傍聴や議会中継を視聴される方々にも、一般質問の内容を理解していただけるよう、通告書の質問事項ごとに必ず前置きとして、質問の前提となる施策や制度の背景、経過、仕組みなどを述べていたところでありました。

しかしながら、通告書の質問の要旨において同様の内容が具体的に記されており、傍聴者などにも十分質問の内容が理解される状況にあると捉えておりますことから、今後は答弁において、質問の要旨と重複するような前置きは省略し、または、必要な場合には、具体的な質問項目への答弁の中で必要な前置きを述べるなどして、簡明な答弁に努めてまいりたいというものであります。

この対応につきましては、本年第1回町議会定例会における一般質問から進めて参りたいとのことでありますので、本来ではありませんが、本日この場をお借りしてご説明をさせていただくものであります。

議員の皆様には本内容について、あらかじめご理解とご承知をいただきますようお願いいたします。本来であれば、2月25日の開会前の議会運営委員会で説明すべきと考えておりましたが、定例会を目前にした唐突な説明になることを避けるべきと判断し、本日の議会運営委員会でご説明をさせていただきました。

事務局からは以上であります。

○委員長（小田新紀） この件について何か確認や質問よろしいですか。

(なしの声あり)

○委員長（小田新紀） ここで暫時休憩いたします。

(暫時休憩)

○委員長（小田新紀） 休憩を解いて再開いたします。

以上をもって本日の案件は終了いたします。

これをもって本日の委員会を閉会いたします。

(11:00終了)